

高齢化社会の進行とIT

名古屋大学 情報文化学部 学部長 横井 茂樹

Shigeki Yokoi
Dean, School of Informatics & Sciences,
Nagoya University



はじめに

現在、日本が急速に高齢化社会に到達しつつあることはメディアなどでとりあげられ、まわりに高齢者の方を見る機会が大変増えていることから読者も実感されていることと思う。しかし、私が色々な年齢の方と話した限りでは、意外にその本質を知っている方は少なく、漠然とした認識しかないという印象である。私は7、8年前から高齢化社会の進行に関してITにより何か対応できないかと考えて研究に取り組んでいるが、日本の高齢化について理解すればするほど(IT活用も含めて)高齢化への対応は極めて重要な課題であることを感じている。

本稿では、このような日本の高齢化の状況を概説し、私の研究室で取り組んでいるITによる高齢化社会への対応に関する研究について紹介する。

日本は世界一の高齢化国

内閣府の高齢化白書⁽¹⁾によれば、日本の総人口(平成17年10月1日)は1億2776万人、そのうち、65歳以上の高齢者人口の割合を高齢化率と呼んでいるが、高齢者の人口は、過去最高の2560万人、高齢化率は20%になっている。2005年ごろにイタリアを抜いて高齢化率世界一になったとされている。

さらに、2020年頃は高齢化率が約30%になると推定されており、他国より5%以上上回って突出した高齢化社会になると予測されている。1985年頃にスウェーデンが高齢化国と福祉政策で世界的に有名になった時期があったが、このときでも高齢化率18%程度であり、まさに、過去にどの国も経験したことがない高齢化社会に突入しようとしている。すなわち、他のどの国よりも急速に高齢化社会に対応した社会作りをする必要に迫られている訳である⁽²⁾。

高齢化に向けての課題とIT

急速な高齢化に伴って、様々な問題が起こってきており、社会制度や技術革新などが求められている。年金問題、医療問題、介護問題、高齢者雇用、高齢者の社会参加、高齢化社会への対応は、年金問題など社会制度の改革から産業構造の変化まで広範な改革と変革を伴うことになる大きな課題であるが、ITを活用した高齢化社会への対応も一つの有力な手段として研究していく必要があると考えられる。

高齢化社会でのIT活用は、一つには高齢者の生き生きライフの支援ツールとしての活用が考えられる。社会参加・能力開発、労働支援、社会活動・ボランティア活動支援、生活支援、趣味などへの活用である。また、一方で医療や福祉関係のIT技術は、高齢者のライフクオリティを支える様々な技術開発が期待される。医療・福祉の機器やシステム開発、高齢者の介護支援、などである。

シニアのパソコン学習支援ソフトの開発と教育

私の研究室では、シニア世代のIT活用を支援・促進することがこれら世代の活性化とともに地域活性化にも大きな意味を持つてくると考え、シニア世代のIT学習と活用を支援するためのソフトウェアの開発の研究を行っている⁽³⁾。

シニア向けパソコンソフト「e-なもくん」

これは、初めてパソコンを使う人でも簡単に電子メールとインターネットホームページ閲覧が可能にするためのソフトである。このソフトウェアは、名古屋市と名古屋大学の共同でソフトと教材を開発した。

シニア世代の初心者がパソコンを覚えるときに、文字入力が必要な壁になっているため、本プロジェクトでは、キーボードを使わないで画面上で文字を入れられる機能を開発した。また、ソフトウェアの構造を単純化してわかりやすいものにするとともに、画面デザインにも工夫を凝らし、極力機能を少なくした覚えやすいソフトを目指した。

平成17年度後半から、名古屋市全区の生涯学習センターで実際にパソコン教育を行ってきた。これまでに総計約2500名の受講者に講習を行った。受講者は中心が70代であり、中には80歳以上の受講者もあり熱心に学習されていた。現在、より広くe-なもくんソフトを使って頂けるようにe-なもくんの改訂版を検討中である。



第1図 e-なもくん電子メールソフトと画面キーボード



第2図 講習会の様子（各区で1回10名参加）

地域におけるIT活用支援サイト[e-市民ひろば]

現在、様々な地域活動は、リタイアしたシニアが子育てを終わった主婦が担っている。これらの層もなかなかまとまった地域活動がしにくくなっており、シニアを中心とした人達が、安心安全や、環境対応など様々な地域の問題に対処してもらいたいことが望まれている。

私の研究室では、地域活動をするグループにその活動を支援するWebコミュニティツールを提供する研究を

行っている⁽⁴⁾。このためのウェブサイト「e-市民ひろば」は、市民グループを対象として、容易に情報共有・情報発信できる場を提供するというサービスである。NPOや地域コミュニティといった市民グループの多くは、Webサイトの構築と運営にはあまりコストをかけることができない。また、その担い手の多くは高齢者であり、PCやインターネットのスキルもあまり高くないのが通例である。

しかし、市民グループがある程度Webツールを利用できると、コミュニケーションや、情報管理面でメリットは大きいと考えられる。そこで、我々が開発しているWebコミュニティサイト「e-市民ひろば」では、ブログツール、掲示板、スケジュール管理など、予め彼らに必要な機能を選定した上で、容易に利用できる状態に整えたWebスペースを提供している。

この他にも、高齢化社会・地域に対応する以下のような研究を行っている。

- ・シニアのパソコン利用法の学習支援サイト
- ・リモートコントロールソフトを利用した遠隔ソフト学習支援
- ・地域文化のアーカイブコミュニティ
- ・地域情報発信のWebサイト

[参考文献]

- (1) 内閣府：平成18年度版高齢者白書
<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2006/zenbun/html/r1110000.html>
- (2) 藤正巖 古川俊之 ウェルカム・人口減少社会(2000年)文春新書
- (3) S.Yokoi and Z. Wei: "Supporting Senior citizens to learn IT skills," e-CASE 2009, Singapore (2009-1) 発表予定
- (4) S.Matsumoto and S. Yokoi: "Web Based support for Citizen's Group," e-CASE 2009, Singapore (2009-1) 発表予定

横井 茂樹(よこい しげき)氏 略歴

昭和52年 名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了
 昭和52年 名古屋大学助手
 昭和53年 三重大学助教授
 昭和57年 名古屋大学助教授
 平成5年 名古屋大学情報文化学部教授
 平成15年 名古屋大学大学院情報科学研究科教授
 平成20年 名古屋大学情報文化学部学部長

研究歴：大学院生時代から、情報工学系の研究、とくに画像関係の研究を行ってきた。

研究テーマは、画像処理アルゴリズム、コンピュータグラフィックス、バーチャルリアリティなどの基礎技術の研究を行ってきたが、情報文化学部に移って以来、情報と社会に関わる文理融合領域の研究を行っている。最近の研究テーマは、地域情報化、高齢化社会、国際化への情報技術の対応に関する諸研究に取り組んでいる。

所属学会：電子情報通信学会、情報処理学会、日本VR学会、情報システム学会、情報文化学会、日本社会情報学会

委員等：内閣府ソフトウェア懇話会委員、電子情報通信学会MVE研究会委員長などを歴任